

第1回 西浦地区

まちづくりと公共施設の将来を考えるワークショップ

日時：平成29年9月9日（土）
午後1時～午後3時30分
会場：西浦小学校 図書室
主催：蒲郡市

プログラム

開会	1：00
あいさつ	
事務局から説明	1：05
・ワークショップの趣旨・目的 ・進め方とスケジュール ・蒲郡市の現状と公共施設マネジメントの取り組み ・本日の検討内容	
(休憩)	1：50
グループ討議	2：00
発表	3：05
事務連絡	3：25
閉会	3：30

<目次>

- ・ ワークショップの趣旨・目的 1
- ・ 進め方とスケジュール 2
- ・ 蒲郡市の現状と公共施設マネジメントの取り組み 7
- ・ 本日の検討内容 20
- ・ 西浦地区公共施設の概要 21
- ・ 西浦地区まちづくりと公共施設の
将来を考えるワークショップ資料集 別冊

次回ワークショップのご案内

「第2回西浦地区まちづくりと公共施設の将来を考えるワークショップ」を以下のとおり開催いたしますので、ご参加下さいますようよろしくお願いいたします。

1 日時

平成29年10月 7日（土）

午後1時30分～午後4時（開場：午後1時15分）

2 会場

西浦公民館 2階 講堂

3 お願い

- 本日の資料「西浦地区まちづくりと公共施設の将来を考えるワークショップ資料集」は、今後のワークショップにご持参下さい。
- 当日利用する資料を郵送で事前配布する場合があります。その際は、当日、資料をご持参下さい。
- 欠席される場合は、事務局までご連絡願います。

【ワークショップ事務局】

蒲郡市総務部財務課 担 当：倉橋・小野・大森・星野

電 話：0533-66-1158

ファクス：0533-66-1183

E-mail：zaimu@city.gamagori.lg.jp

ワークショップの趣旨・目的

蒲江市では、急激に変動する社会情勢に対応した公共施設の機能配置や魅力向上を図るとともに、将来に大きな負担を残さない行財政運営を実現するために、公共施設マネジメントの取り組みを進めています。

これまでに市民の皆様のご意見を伺い、「蒲江市公共施設マネジメント基本方針」と「蒲江市公共施設マネジメント実施計画」を策定し、今後の公共施設の整備を進めるための道筋を示しました。

その計画では、小中学校、保育園、児童館及び公民館（地区利用型施設）の再編にあたっては、中学校区単位で住民の皆様のご意見を伺い、施設再編計画となる「地区個別計画」を策定することとしています。

このワークショップは、「蒲江市公共施設マネジメント基本方針」を踏まえ、これから起こる様々な社会の変化や地域の課題に対応した既成概念にとらわれない、より良い公共施設の配置や使い方を考えるために開催するものです。

蒲江市公共施設マネジメント基本方針

- ①適正化 将来を見据えた維持可能な施設規模に適正化します。
- ②効率化 効率的・効果的な維持管理を実施します。
- ③魅力 社会変化に対応した魅力ある公共施設へ再編します。
- ④安全性 計画的な保全により公共施設を安全に維持します。
- ⑤実行力 公共施設の再編に向けて実行体制を構築します。

市は、皆様のご意見を反映させた西浦地区の「地区個別計画」を策定し、施設の再配置を進めることで、“住んでよかった”“住み続けたい”と思えるような誇りと愛着を持てるまちづくりを目指します。

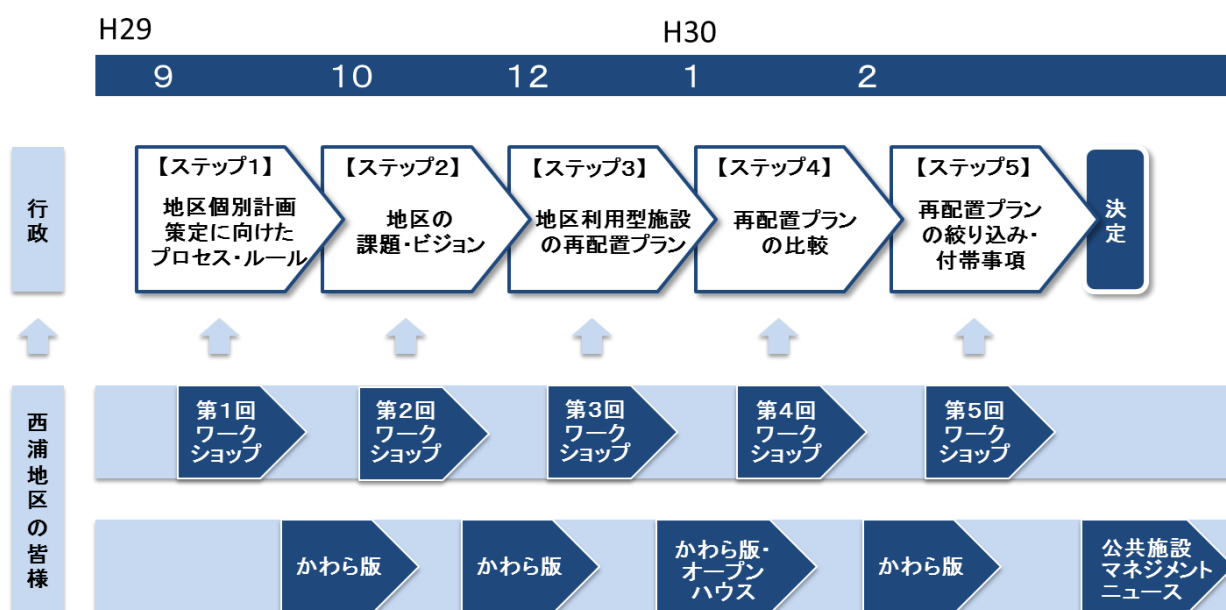
進め方とスケジュール

1 検討のステップ

市は、ワークショップ等で得られた成果をもとに、「地区個別計画」の策定に向けて次の5つのステップに分けて、段階的に検討を行います。

- ステップ1** ワークショップ等を通じ、地区個別計画をどのような手順で策定するか確認します。
- ステップ2** 地区にどのような課題があるか確認して問題意識を共有します。
- ステップ3** 課題解決に向けた方策について共有し、複数の再配置プランを検討します。更に、複数の再配置プランの評価の視点について検討します。
- ステップ4** 複数の再配置プランをステップ3で検討した視点に基づき比較・評価します。
- ステップ5** 再配置プランの絞り込みをします。

2 スケジュール（予定）



3 コミュニケーション

「地区個別計画」の策定に向けた検討では、地区の皆様と様々なコミュニケーションを進めていきます。

- ワークショップ
- オープンハウス（パネル展示型説明会）
- かわら版
- 公共施設マネジメントニュース



【オープンハウス（パネル展示型説明会）】

西浦地区の住民の皆様が集まる施設などでパネルを利用し、ワークショップで挙げられた意見や検討された再配置プランなどの内容を広報します。

どなたでも立寄ることができ、住民の皆様からワークショップで検討されている内容についてのご意見をいただきます。

【かわら版】

西浦地区の各世帯に配布するチラシです。ワークショップで挙げられた意見や検討された再配置プランなどお知らせするとともに、ワークショップで検討されている内容についてのご意見を募集します。

【公共施設マネジメントニュース】

市の全世帯に配布するチラシです。ワークショップで検討された結果をお知らせします。

4 ワークショップの概要

- ワークショップは、平成30年3月ごろまでに5回程度開催します。
- 原則として土曜日・日曜日または祝日に開催します。
- 会場は、原則として地区内の小中学校または公民館とします。
- 事務局は、蒲郡市総務部財務課が担当します。
- ワークショップには、公募でご応募いただいた方が参加します。
- 同じ参加者に継続してご参加いただき、議論を深めていきます。
- ワークショップでは、参加者の皆さんにグループ討議で自由にご議論いただけます。
- 一般の傍聴者や報道関係者が会議を傍聴することができます。

5 ワークショップの進め方

- グループ討議の運営では、円滑な議論のため、司会進行を第三者的立場のファシリテーターがお手伝いします。
- ワークショップでは、グループごとの議論を中心に進め、会の最後に各グループの議論の結果を発表し、後日、各回の成果として取りまとめます。
- グループ討議の途中の議論は要点をまとめて記録します。これは個人の発言が特定されるものではありませんので、自由で前向きな議論をお願いします。
- 市に対する要望・陳情の場ではありません。
- ワークショップの様子をホームページ等で公表するなど情報発信を行うことがあります。会場内で録音・撮影する場合がありますことをご了承ください。

6 ワークショップの成果

- ワークショップの最終回までにまとめ上げた成果は、複数の再配置プランの評価結果を比較表として整理します。
- 比較表の内容の一部（あるいは全体）は、市が「地区個別計画」を策定する際の基礎情報として活用します。
- 各回の成果についても記録として残します。

7 ファシリテーターのご紹介

～こんにちは。皆さんの議論を円滑に進めるために、第三者的立場から議事進行やとりまとめをお手伝いします。どうぞよろしくお願ひします～

しのだ さやか
篠田 さやか

オフィスキュア

さかもと ちはる
坂本 千晴

株式会社 C・ROW（シロウ）

おぐち ゆうこ
小口 優子

有限会社 まち処計画室

なばた めぐみ
名畑 恵

NPO 法人まちの縁側育くみ隊

みつや かつし
三矢 勝司

NPO 法人岡崎まち育てセンター・りた

ふじもり みきひと
藤森 幹人

株式会社 対話計画

かつらやま としあき
葛山 稔晃

株式会社 対話計画

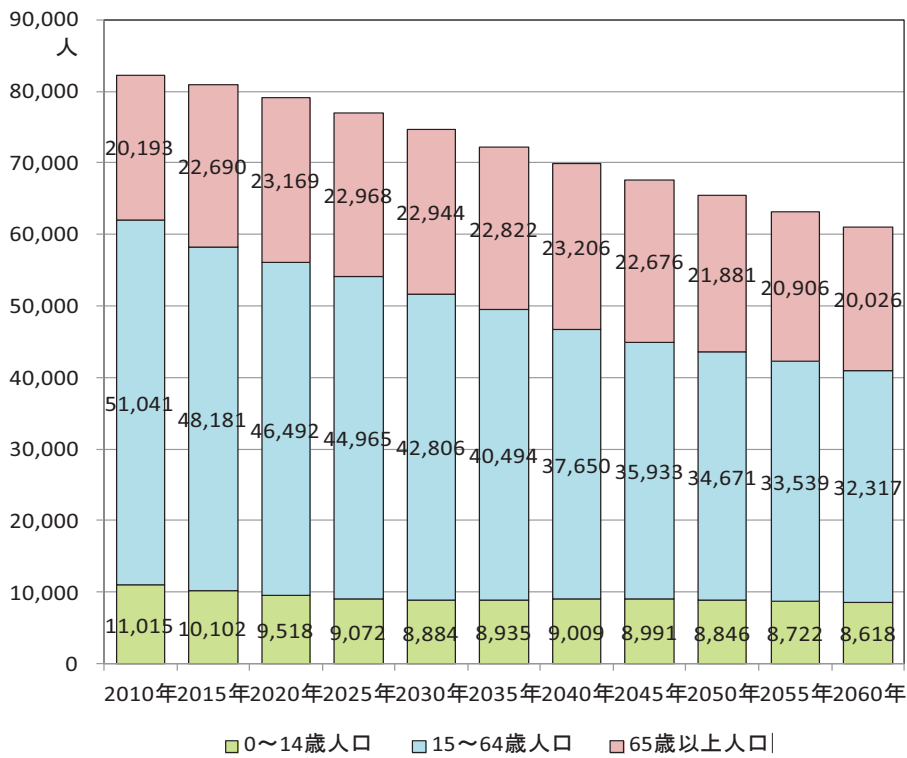
- 話し合いに積極的に参加しましょう
- 自分の考えを率直に述べましょう
- 前向きな思考で発言しましょう
- 評論家ではなく当事者として関わりましょう
- 他の参加者の意見に耳を傾けましょう
- 気持ちよく運営できるよう協力しましょう
- 議論や運営に貢献する姿勢を讃えましょう

(必要があれば追加しましょう)

蒲郡市の現状と公共施設マネジメントの取り組み

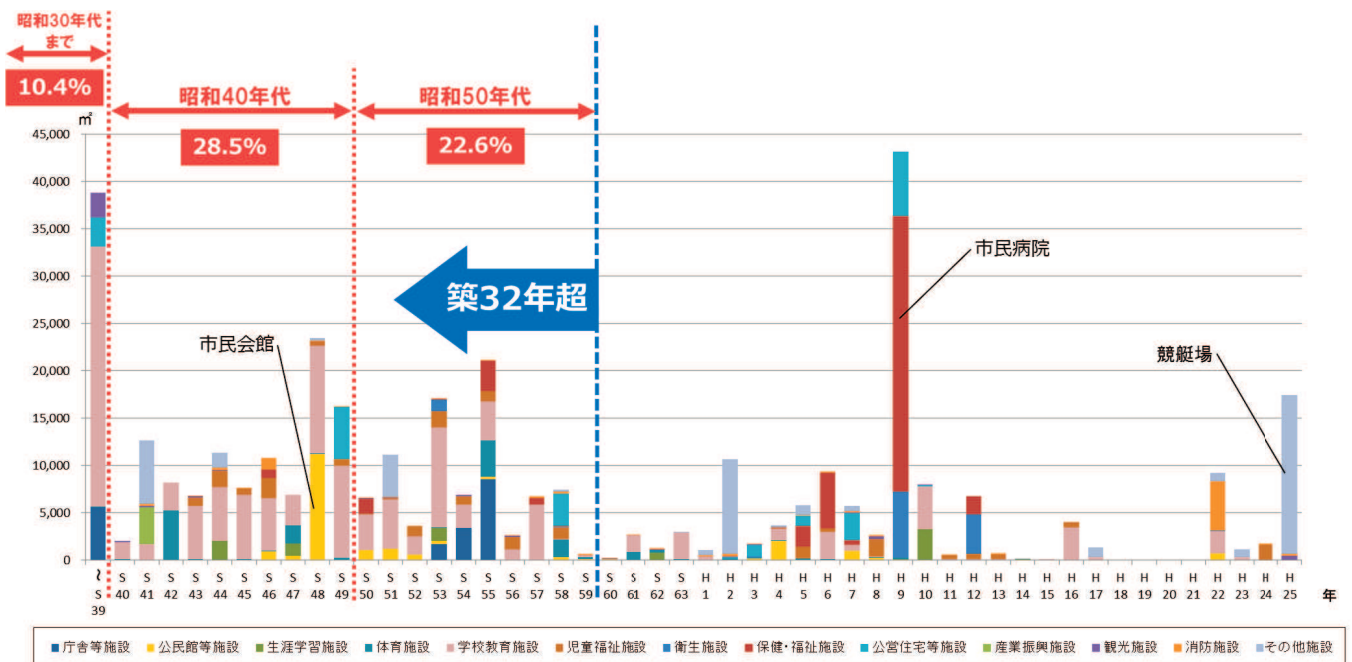
- 1 蒲郡市の現状と課題
- 2 公共施設マネジメントの取り組み

蒲郡市の人口（目標値）

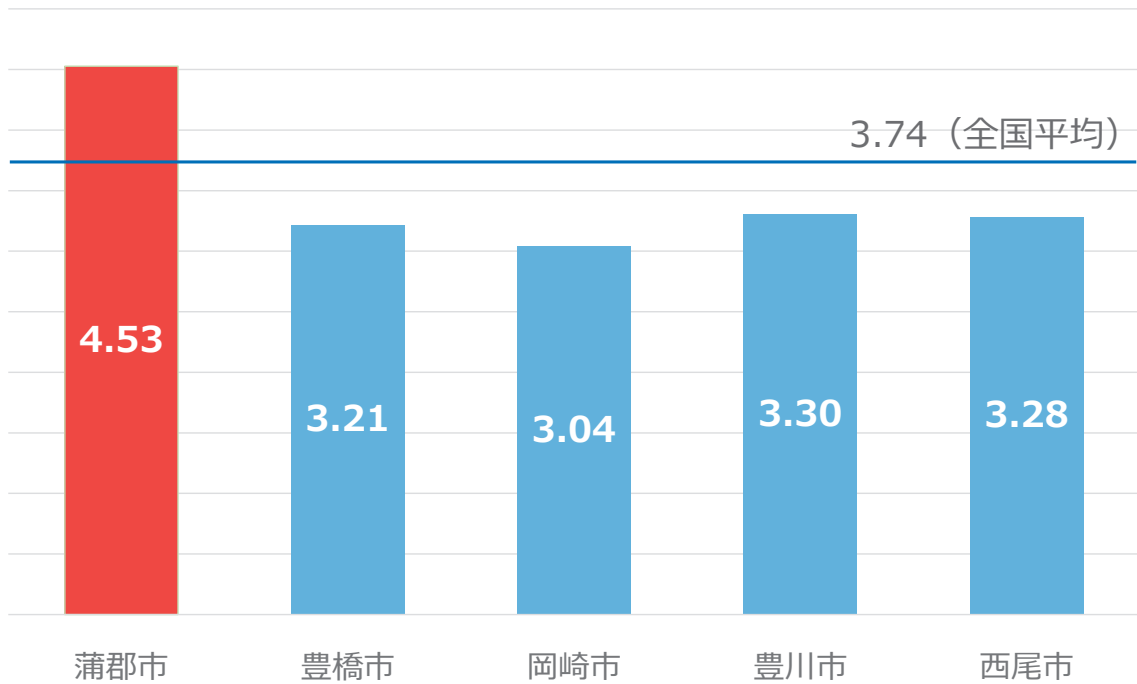


出典：蒲郡市まち・ひと・しごと創生人口ビジョン

築年別整備状況（蒲郡市の公共施設）



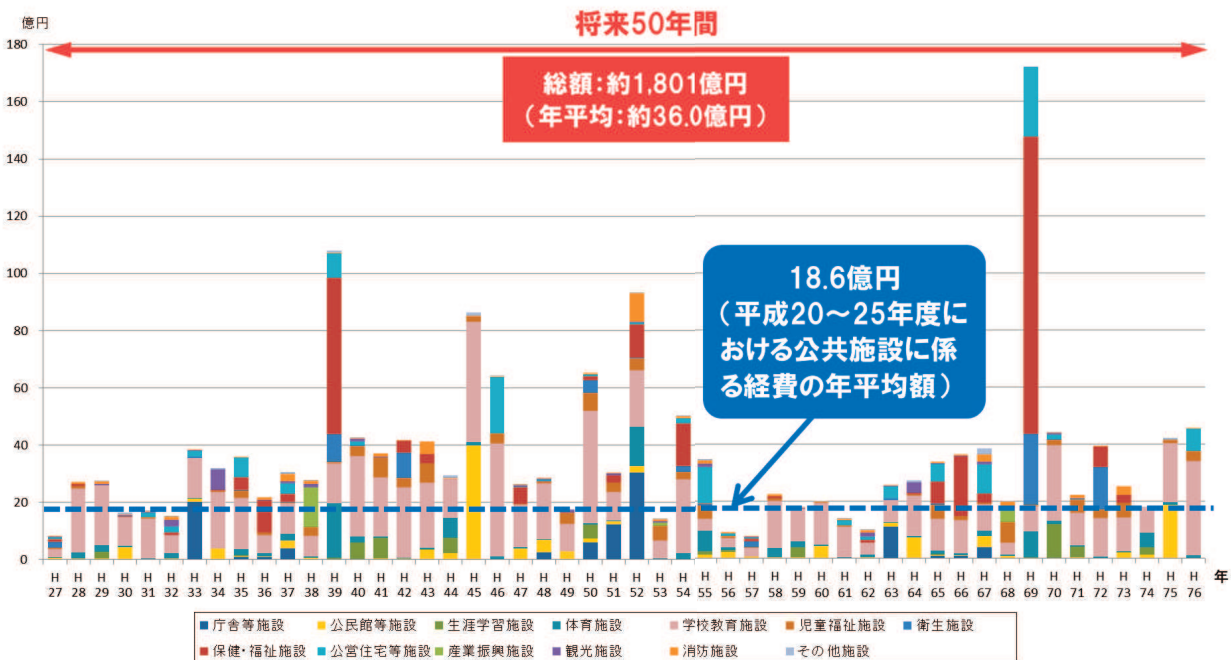
人口1人あたり公共施設面積 (㎡)



※ ボートレース場を除くと、蒲郡市の人口1人あたり公共施設面積は、4.00㎡になります。

出典：平成26年度蒲郡市公共施設白書

公共施設の維持更新にかかる将来費用

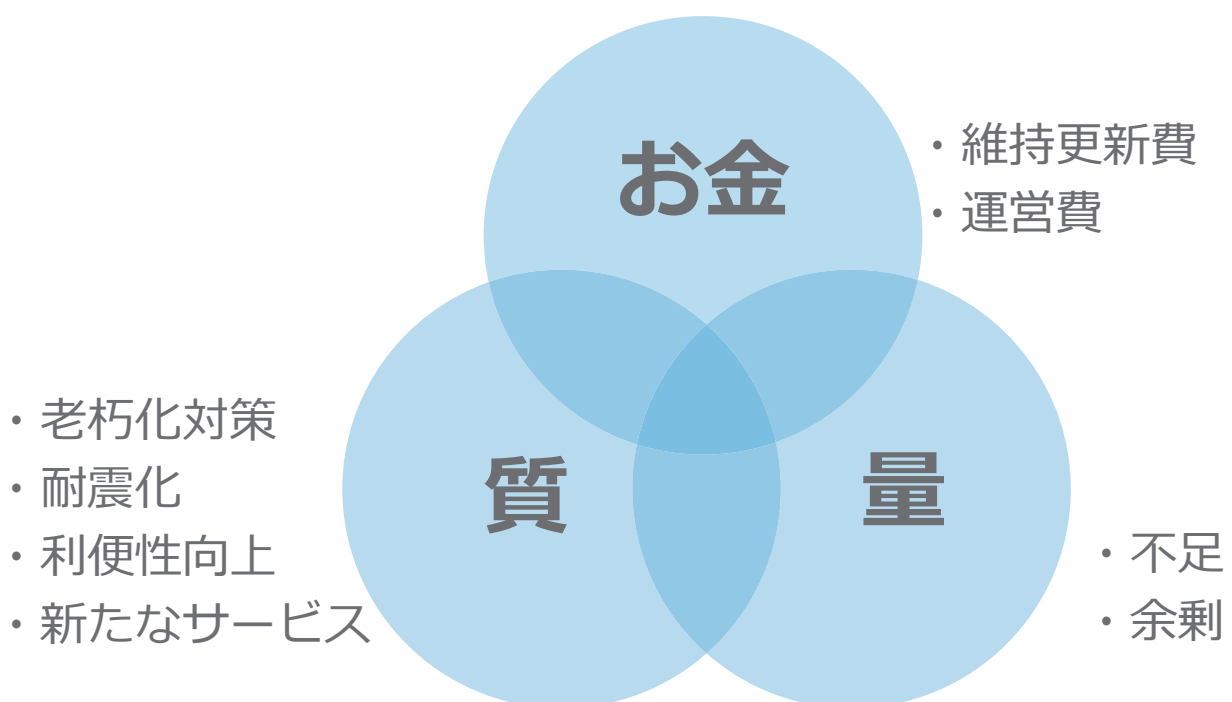


※競艇場は、別会計にて修繕・改修を行っているため、推計対象から除外している。 出典：平成26年度蒲郡市公共施設白書

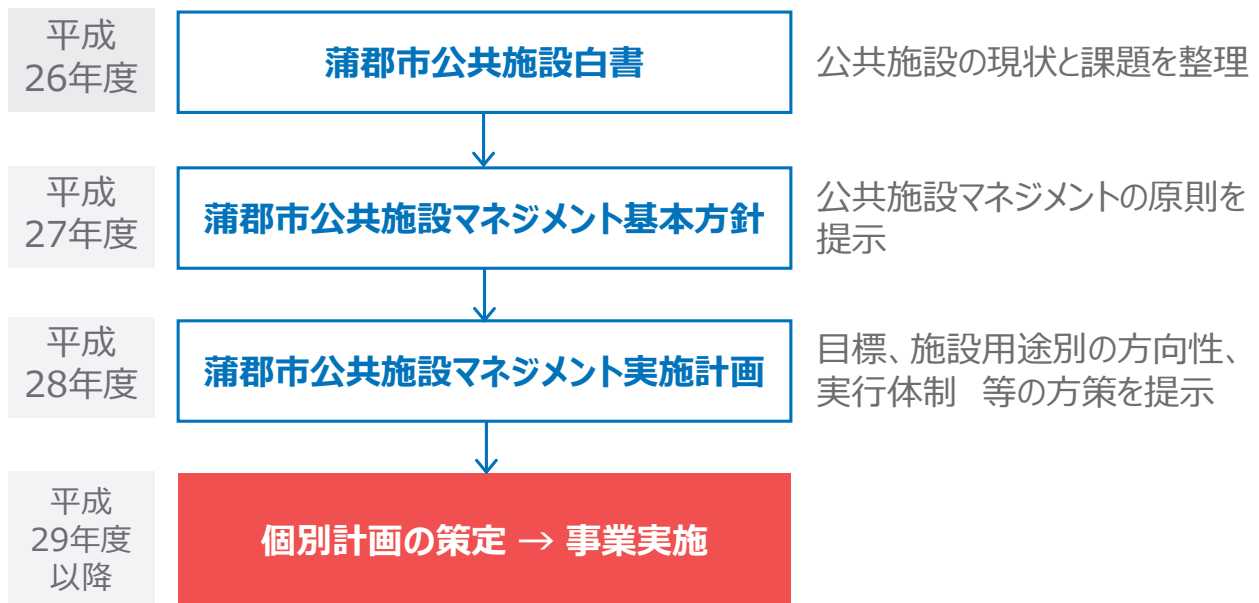
- 公共施設の維持・更新にかかる費用は、将来50年間では総額約1,801億円（年平均約36.0億円）と推計されています。10年後以降の費用が特に高く、厳しい状況になります。
- 平成25年度までの6か年度における普通建設事業費等のうち、公共施設に係る経費は約18.6億円であり、大半の年で、公共施設の維持・更新にかかる費用が現状の公共施設に係る経費を上回っています。

- 1 蒲郡市の現状と課題
- 2 公共施設マネジメントの取り組み

公共施設マネジメントとは…

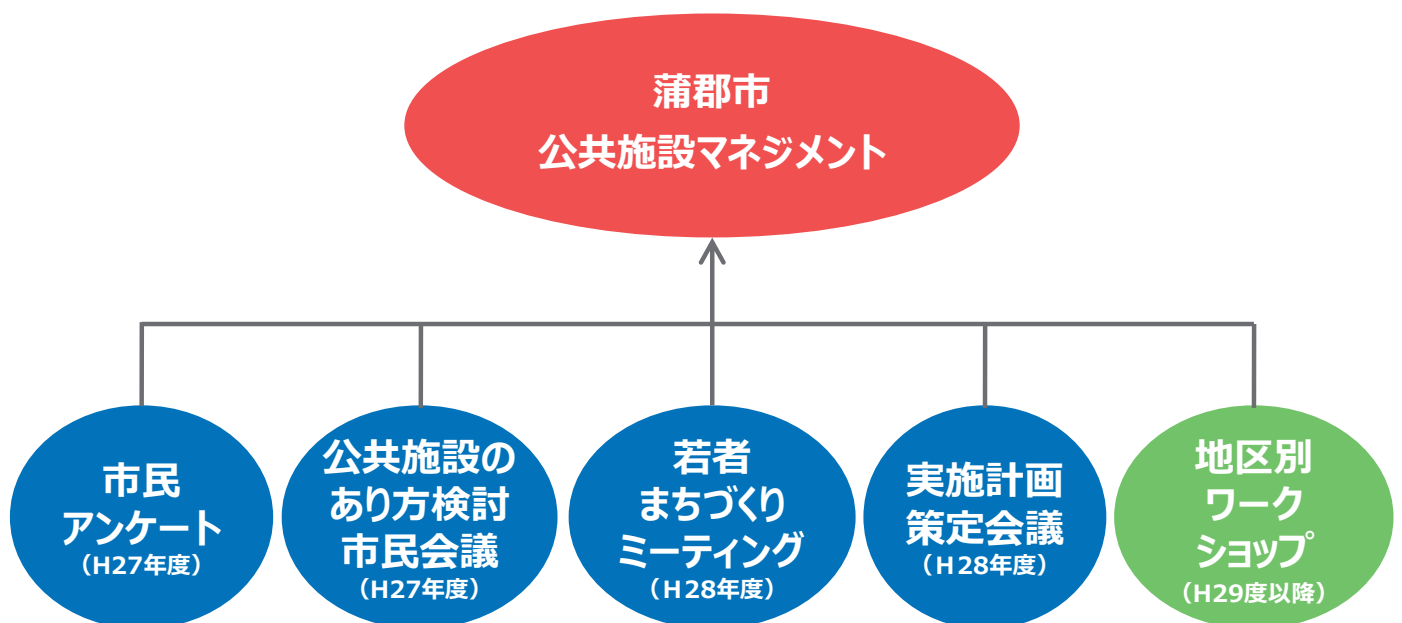


これまでと今後の取り組み



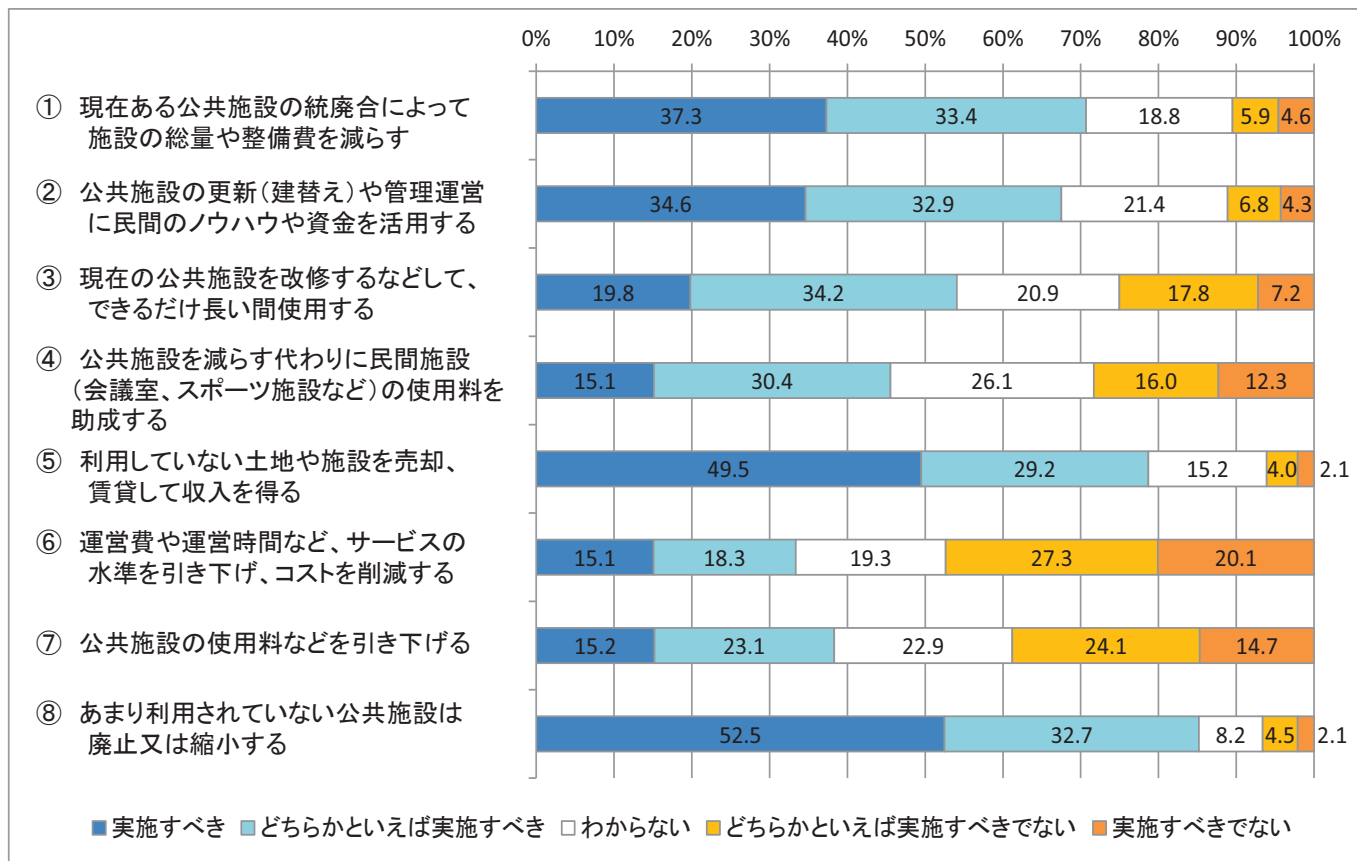
市民意見の反映

蒲郡市では、様々な方法で市民の皆様のご意見をお聴きしながら、公共施設マネジメントの取り組みを進めています。



市民アンケート結果

平成27年度実施、回答数：783



市民との協働

これまで、様々な立場の方にお集まりいただき、公共施設の将来についてのご意見をいただきました。

本市は、いただいたご意見を反映させて基本方針や実施計画を策定してきました。

公共施設のあり方検討市民会議（H27年度）



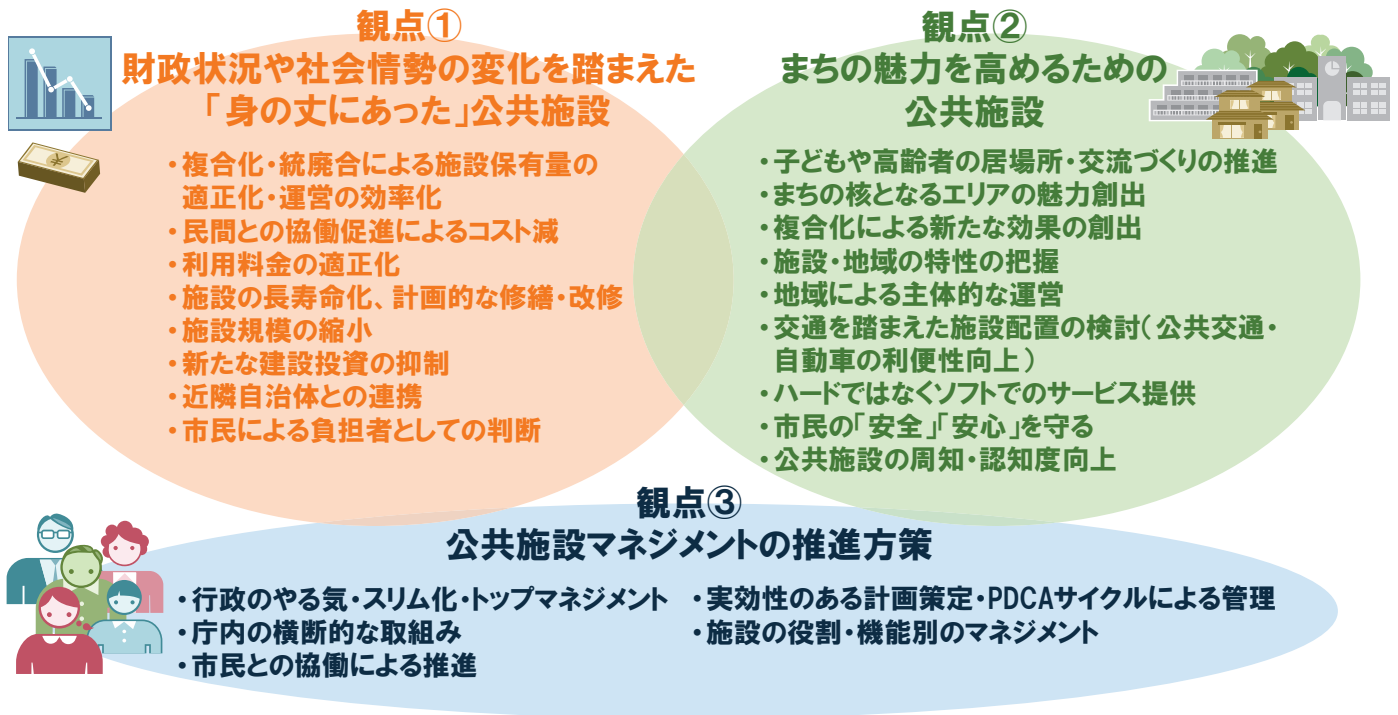
若者まちづくりミーティング（H28年度）



公共施設マネジメント実施計画策定会議（H28年度）



市民会議から市長に提出された提言書（H.27.10）



出典：蒲郡市の公共施設のあり方に関する提言書
（平成27年10月・蒲郡市公共施設のあり方検討市民会議）

蒲郡市公共施設マネジメント基本方針（H.28.3）

市民の皆様の意見を踏まえ、公共施設マネジメントを推進するための原則を示しました。

基本方針 5つのキーワード



蒲郡市公共施設マネジメント実施計画（H.29.3）

公共施設マネジメントの取り組みを進めていくための方策を示しました。

計画期間

30年間（平成29年度から平成58年度まで）

マネジメント目標

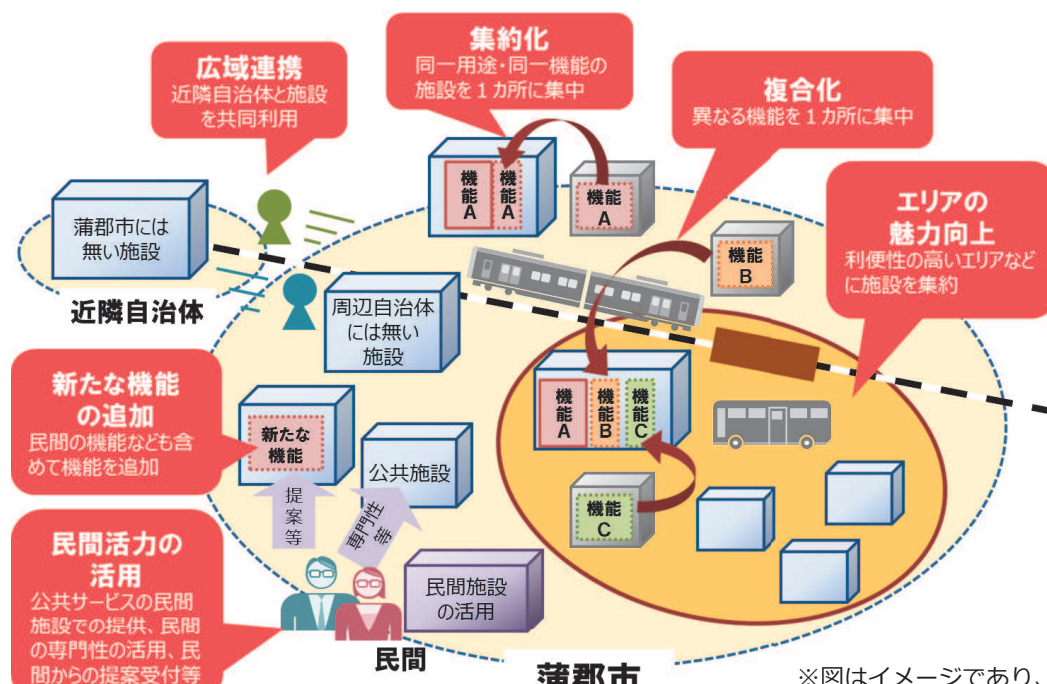
- ① 建物の更新の際に
概ね**3割**の床面積の縮減する。
- ② 保有床面積の縮減と建物の長寿命化による費用の平準化により、
523億円の維持更新費用を縮減する。

蒲郡市公共施設マネジメント実施計画

全市利用型施設についての基本的な考え方

市民会館、図書館等（市内全域の住民の皆様が主な利用者になる施設）

図：全市利用型施設の複合化等のイメージ



※図はイメージであり、具体的な施設の整備方針を示すものではありません。

地区利用型施設についての基本的な考え方

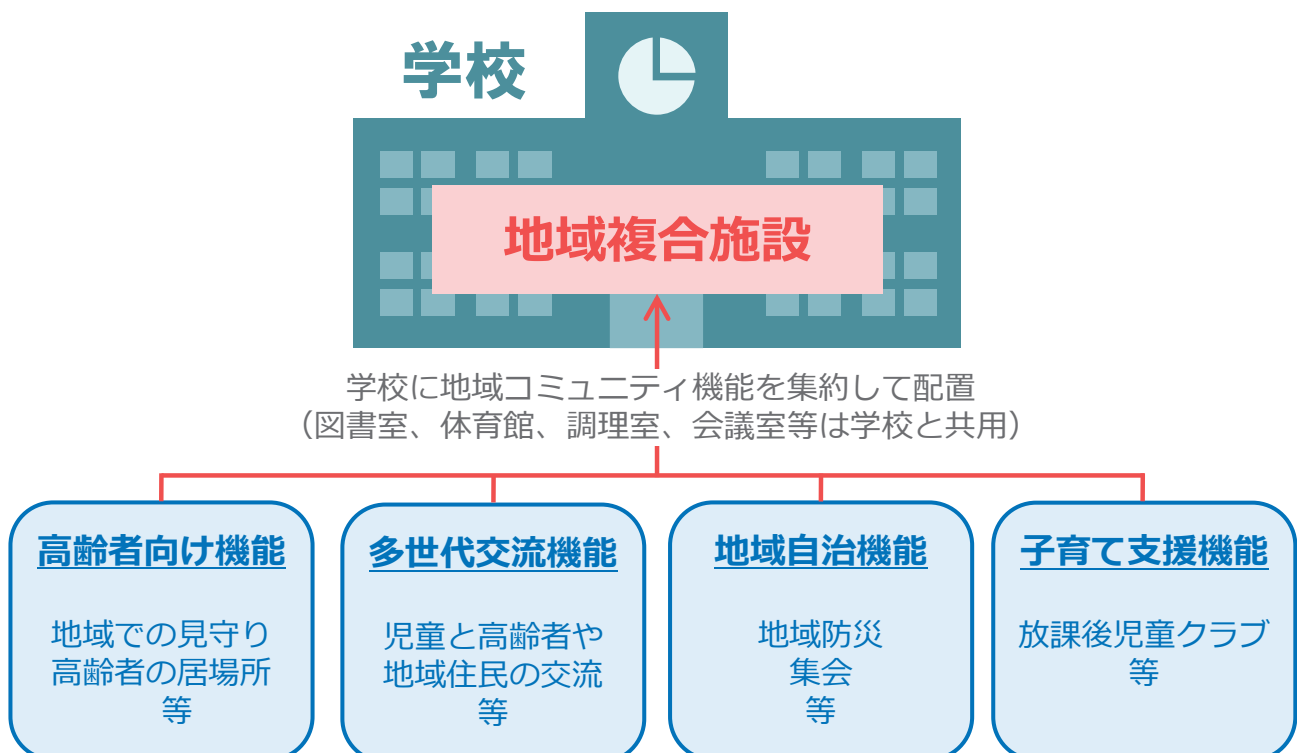
小中学校、保育園、児童館、公民館
(施設が立地する地区の住民の皆様が主な利用者になる施設)



社会の変化に対応していくために、
地域で支え合い、助け合うことができる
環境の充実が求められています。

学校に多様な活動を行うことができる**交流拠点**を形成することで、コミュニティの維持・活性化を図ります。

図：地域複合施設のイメージ



事例①

埼玉県吉川市 吉川市立美南小学校

施設の配置・動線

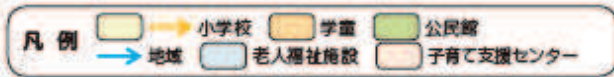
地域の利用者が利用する各施設や学校開放にも使用する特別教室は1階に配置し、普通教室や職員室などの諸室は2階以上に配置することで管理をしやすいようにしている。

1階の中庭は学校と地域の利用者が自然に交流できるスペースとして設置している。

<立面図>



<配置図>



【出典】

学校環境の向上に資する学校施設の複合化の在り方について～学びの場を拠点とした地域の振興と再生を目指して～(学校施設の在り方に関する調査研究協力者会議)

事例① 続き

多世代が集う地域の交流拠点に

- 小学校に、乳幼児から高齢者まで様々な世代が利用する施設を複合化
- 体育館、音楽室、図工室、家庭科室等を地域に開放



学校の特別教室と公民館の間に設けられた学校と地域が共有する中庭



子育て世代・共働き世代が増加する地域の実情に応じた施設を整備 (左: 子育て支援センター、右: 学童保育室)



デイサービスでは小学校の給食を提供 学校教育の活動時間外に体育館を地域に開放

【出典】

学校環境の向上に資する学校施設の複合化の在り方について～学びの場を拠点とした地域の振興と再生を目指して～(学校施設の在り方に関する調査研究協力者会議)

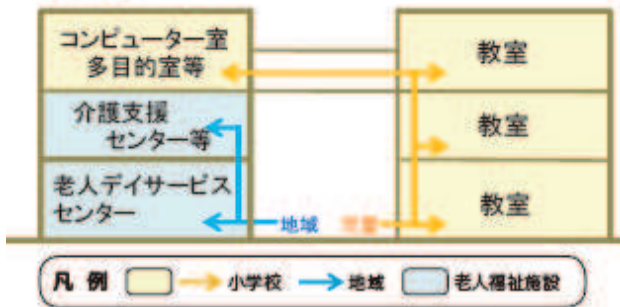
事例②

京都府宇治市 宇治市立小倉小学校

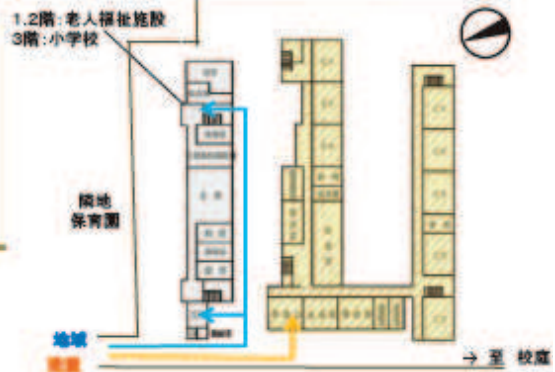
施設の配置・動線

- 校舎は3つの棟があり、一番北側の校舎の1・2階部分を老人福祉施設に、3階部分を小学校のコンピューター室、多目的室等として改修。
- 3階には、児童が外部や老人福祉施設を通過せずに移動できる連絡通路を設置。
- 両施設を区分して管理するために、通常時には学校と老人福祉施設をつなぐ階段は使用しておらず、非常時のみの使用としている。

<立面図>



<配置図>



【出典】

学校環境の向上に資する学校施設の複合化の在り方について～学びの場を拠点とした地域の振興と再生を目指して～(学校施設の在り方に関する調査研究協力者会議)

事例② 続き

児童と高齢者の自然な交流が生まれる

- 余裕教室を改修し高齢者向け施設に転用
- 授業の一環での施設間交流のほか、日常的に身近で生活することにより世代間交流が自然に発生



【出典】

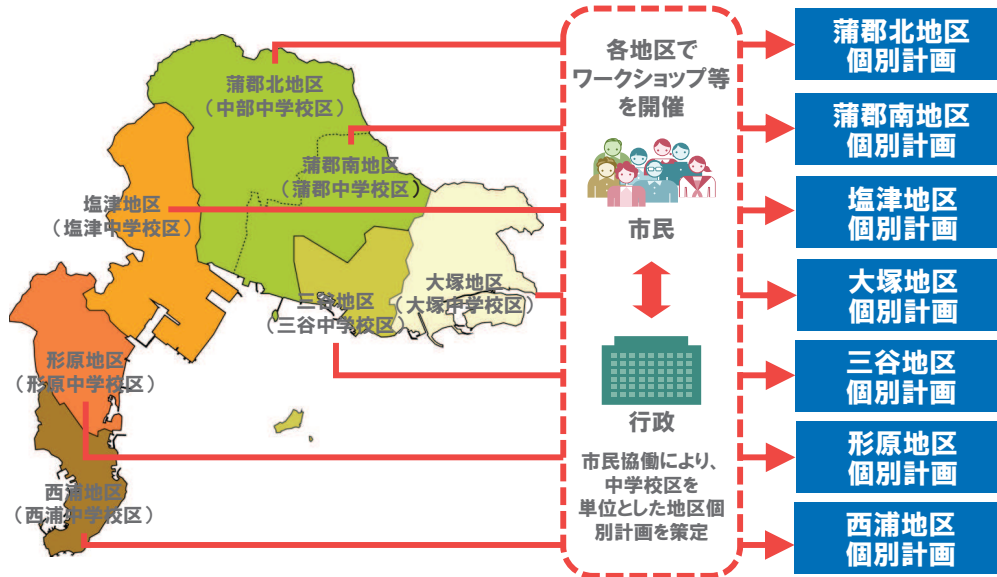
学校環境の向上に資する学校施設の複合化の在り方について～学びの場を拠点とした地域の振興と再生を目指して～(学校施設の在り方に関する調査研究協力者会議)

市民協働により地区個別計画を策定

将来の地区利用型施設の配置や活用方法を示す**地区個別計画**を**中学校区ごと**に策定します。

策定にあたっては、ワークショップ等の実施により、**地区の住民の皆様**の考え方・アイデアを取り入れます。

図：市民との協働による地区個別計画の策定イメージ



西浦地区の地区利用型施設は**こちらの5施設**です。

西浦小学校

西浦中学校

西浦保育園

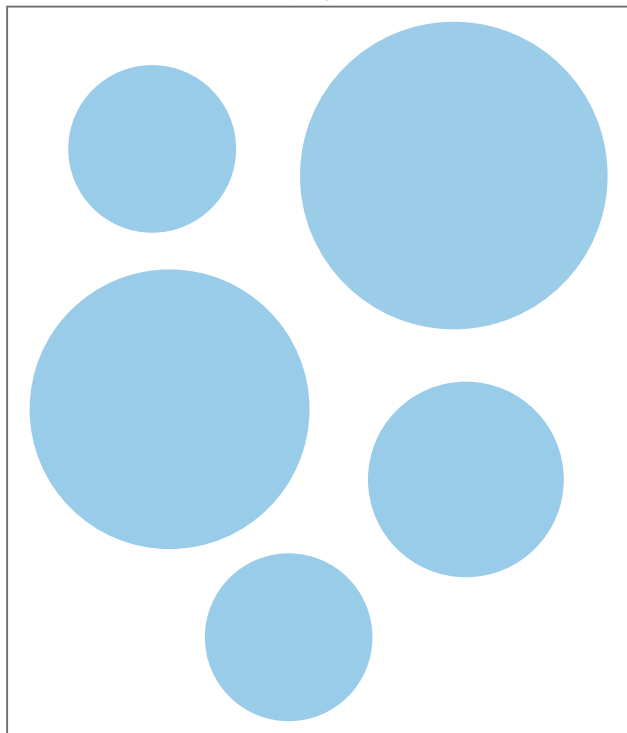
にしうら児童館

西浦公民館

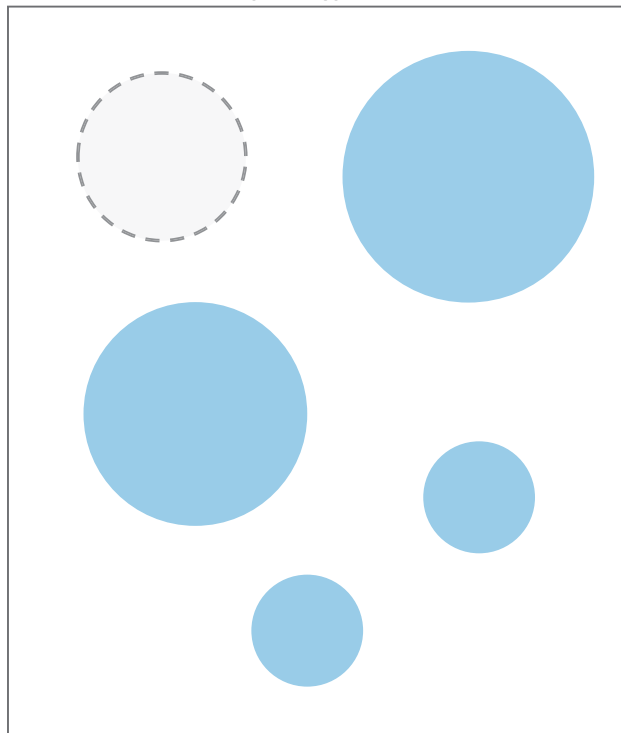


そのまま縮小すると…

現状



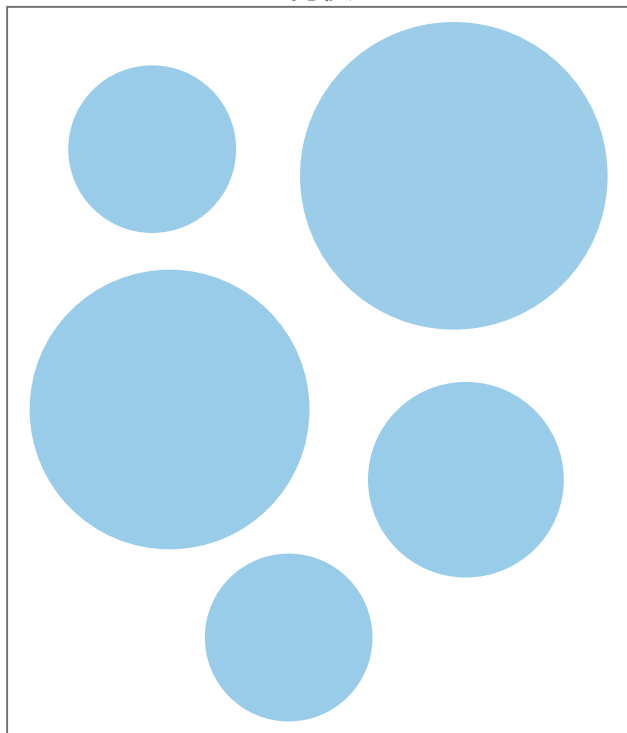
再整備後



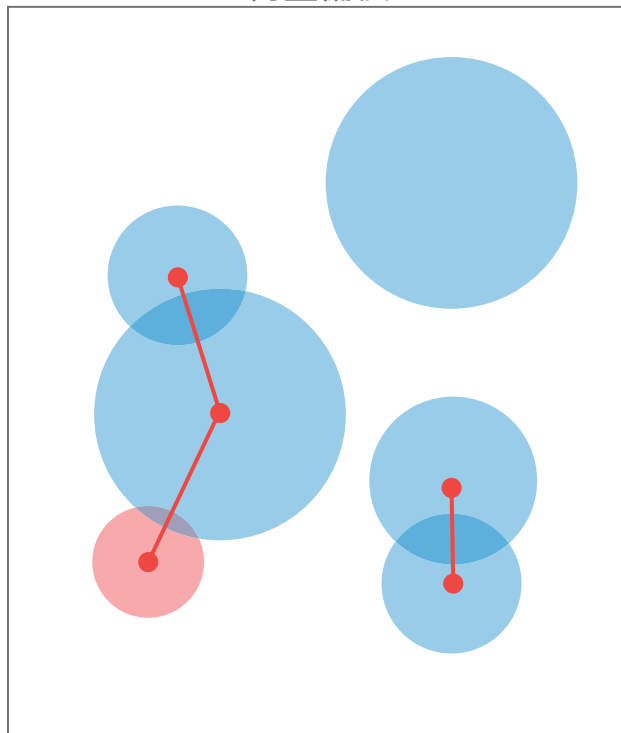
- 必要な機能が維持できない場合も
- ニーズへの対応が難しい

工夫して整備すると…

現状



再整備後



- 使い勝手が良くなる
- 地区の特性や新たなニーズに対応できる
- 効率的な運営が可能

本日の検討内容

① 地区個別計画の策定に向けた検討の進め方やワークショップの進め方についてご質問やご提案はありますか？

② 西浦地区の現状と今後のまちづくりや公共施設について、どのようなことが気になっていませんか？

西浦地区公共施設の概要

名称	写真		概要(特徴・課題・利用状況等)
西浦 小学校			<ul style="list-style-type: none"> ・最も古い校舎は昭和31年に建設されており、老朽化が進んでいる。 ・児童数245人、普通教室数11クラス（5年生のみ1クラス、その他は2クラス）、特別支援学級2クラス。（平成29年4月現在） ・運動場は地域のサッカーチーム、少年野球チーム等で利用されている。 ・体育館は地域のバレーチーム、卓球、バドミントン等で利用されている。
西浦 中学校			<ul style="list-style-type: none"> ・最も古い校舎は昭和38年に建設されており、老朽化が進んでいる。 ・生徒数95人、普通教室数3クラス、特別支援学級2クラス。（平成29年4月現在）
西浦 保育園			<ul style="list-style-type: none"> ・昭和58年に建設されており、老朽化が進んでいる。 ・園児数は82人（定員120人）（平成29年4月現在） ・低年齢児保育を実施しており、0～2歳児を17人受け入れている。 ・延長保育を実施しており、午前7時30分から午後6時まで利用できる。
にしうら 児童館			<ul style="list-style-type: none"> ・平成13年に建設されており、比較的健全な状態を維持している。 ・0歳から18歳を対象とした施設。開館日数は294日、年間利用者数22,750人（平成28年度） ・親子で参加するイベント（赤ちゃんサロン・親子クラブ）が月3回実施しており、母親の交流の場となっている。 ・近隣の高齢者を招き、子どもたちと一緒にゲームをする企画を催すことで、多世代交流の場となっている。 ・利用者が増えていることから、プレイルームを時間予約制とし、安全面への配慮を行っている。
西浦 公民館			<ul style="list-style-type: none"> ・本館は昭和52年に建設されており、老朽化が進んでいる。 ・生涯学習、学術及び文化に関する各種事業を行うほか、住民の教養の向上、健康の増進を図り、生活文化の振興、社会福祉の増進に寄与する場として設置されている。 ・年間利用者数は32,502人、貸部屋の利用率（稼働率）は19.2%である。（平成28年度） ・本館と南館があり、南館には図書館の分室がある。